

国際学部 教育課程編成・実施の方針

国際学部は、教育研究上の目的及び学位授与方針に基づいて教育課程を編成し、効果的な教育方法を実践します。

本学部では、グローバル社会における複雑な課題・問題に取り組んでいくために必要となる複言語能力の涵養に努め、「人」の行動や「社会」の動きを様々な学問領域から学修します。

それを実現するために、以下のとおりの教育課程を編成します。

<専門教育課程の構成（国際学部共通事項）>

1. 学部の共通言語を日本語と英語とし、日本語を母語とする学生には 1 年次第 2 セメスターにおいて英語圏留学を必修とする。また、1 年次から 2 年次にかけて、英語の運用能力だけでなく、英語を通して、論文作成・ディスカッション技能・批判的思考力・対話力などのアカデミック・スキルズを修得する（CEFR 基準で C1 程度）。
2. 両学科・全専攻の専修科目に英語のみで授業を行う科目を設置し、英語力を強化する。
3. 2 年次において、フランス語・ドイツ語・スペイン語・ロシア語・中国語・イタリア語・韓国語の 7 つの言語から 1 言語を選択し、第 2 外国語として集中的に修得する（CEFR 基準で A2・B1 程度）。
4. 学生自身が専門とする科目の履修だけに留まらず、学部内にあるすべての専攻・専修の開講科目も履修できるリベラルアーツ教育を実践する。これを通じて、特定分野の専門性の追究だけでなく、幅広く多岐にわたる学際的な学修を可能にする。
5. 自身が選択した第 1 メジャーに加えて、他の専攻（専修）の体系的な履修をすすめることにより、ダブルメジャー（2 つの専攻（専修）のゼミまで履修）あるいは、メジャー＋マイナー（専攻（専修）の講義科目を 20 単位以上履修）として、2 つの専攻（専修）における学修の高い次元での両立ができるものとする。
6. 社会的・職業的自立に関する指導の柱とすべく、学部共通基礎の必修科目として第 3 セメスターに「キャリア・デザイン」を置く。自らの適性を探るとともに、現代社会における職業・職場の多様な実態と可能性に触れ、グローバル化が進展する現代社会において、働くことと生きることに関する視野を広げる。
7. 学部固有科目の年次配当と教育のねらいを下表のとおりとする。各段階を経て着実に学びのスパイラルアップを図ることができるものとする。

1年次	1 Semester	「入門ゼミ」、「英語」、「専攻基礎科目」を履修し、大学で学ぶ上での、また各専攻で学ぶ上での確実な基礎を身に付ける。
	2 Semester	約3か月にわたり、英語圏に留学する。事前事後学習も含め、その成果を「Overseas University Studies」として単位認定する。
2年次	3 Semester	「英語」、「第二外国語」、「キャリア・デザイン」、専攻基礎科目、専修科目を履修し、言語運用能力の向上を図るとともに、専攻で学ぶ上でのベースとなる知識を身に付ける。
	4 Semester	
3年次	5 Semester	「ゼミ(演習)」、「専修選択科目」を履修し、専門分野に関する発展的な知識と課題発見・解決能力を身につける。希望者は第二外国語の発展的な学びを行う。
	6 Semester	
4年次	7 Semester	「ゼミ(卒業研究)」において、学士課程教育の集大成となる卒業論文を完成させる。
	8 Semester	

<国際学科の専門教育課程の構成>

- 国際学科に以下の専攻・専修を置き、それぞれにおいて専攻基礎科目、専修基礎科目、専修科目、選択科目、ゼミ（演習）を配置し、段階的で体系的な学びを実現する。
 - ・国際人間学専攻（哲学・人間学専修、グローバル・ヒストリー専修）
 - ・国際政治学専攻（国際政治学専修、国際開発学専修）
 - ・国際経済学専攻（国際経済学専修、国際ビジネス学専修）
 - ・Global Liberal Studies 専攻（Global Liberal Studies 専修）
- 日本語を母語としない学生（Global Liberal Studies 専攻の学生）は、1年次から4年次にかけて日本語科目の段階的な履修をすすめ、高度な日本語能力を習得する（JF 日本語教育スタンダード C1/日本語能力試験 N1 程度）。また、Global Liberal Studies 専攻の専門教育の授業は、すべて英語で行う。
- ゼミ（卒業研究）を必修科目として置く。第1メジャーとする専門分野の学びの集大成である卒業論文（卒業研究）を完成させる。

<言語文化学科の専門教育課程の構成>

- 言語文化学科に以下の専攻・専修を置き、それぞれにおいて専攻基礎科目、専修基礎科目、専修科目、選択科目、ゼミ（演習）を配置し、段階的で体系的な学びを実現する。
 - ・複言語・複文化学専攻（言語学専修、異文化コミュニケーション専修）
 - ・英米学専攻（英語学・英語教育専修、英語圏文学・文化専修）
- ゼミ（卒業研究）を必修科目として置く。第1メジャーとする専門分野の学びの集大成である卒業論文（卒業研究）を完成させる。

<授業方法（国際学部共通事項）>

国際学部における教育効果を最大のものとするために、以下のとおりの方法で授業を行う。

- インターアクティブな語学の授業やゼミ、専門分野の教員による専門性の高い講義と学生主体のアクティブ・ラーニングを織り交ぜた授業を行うこととする。
- 「世界の言語（英語・第二外国語・日本語）」と1 Semester 4 単位設定の講義科目（専修科目・専修選択科目）は、同一科目を1週のうちの間隔をあけて複数回授業を行う仕組みとし、学生の記憶が鮮明なうちに次なる内容を教授して授業の密度そのものを上げる工夫をする。
- 英語と第二外国語の授業は、ひとつの科目を原則として3名の教員が1コマずつ順繰りに受け持つリレー形式で行うこととし、その中には必ずネイティブスピーカーを含み、コミュニケーション能力の向上を重視した授業展開を実践する。

4. 3年次に開講するゼミは2限連続で行うこととし、時間をかけた発表や討議ができるようにする。
5. 各科目においては、学びの進捗確認の観点と、常に緊張感をもって授業に臨むことを求める観点から、適宜中間的な確認テストを行うこととする。